特定非営利活動法人　地球学校

設立趣旨書

設　立　趣　旨　書

Ⅰ　設立の動機

平成１２年３月、それまで「さくらの会」という名称で、在日外国人に対する日本語学習支援をしてきた仲間が、新たに任意団体「地球学校」を設立しました。その最も大きな動機は、わが国の日本語教育の世界が非常に偏っていると感じたからです。外国人が日本語を学ぶためには、日本語学校に入らなければなりません。日本語学校はそのほとんどが営利目的の民間経営で、学費は高額です。日本には外国人に対する公的な日本語教育機関がないのです。

高額の学費は払えないけれど日本語を学びたい人々、あるいは生活のために学ばなければならない人々は、ボランティアの支援に頼ることになります。しかし、無償のボランティア活動では、充分な日本語教育を継続的に提供することは非常に難しいのです。私たち「地球学校」は、有資格の教師による質の高い日本語教育を、継続的に提供したいと考えました。そのためには、学習者に対価を払ってもらい、有資格教師の確保と安定をはかる必要があります。

つまり、営利目的ではない「日本語学校」の必要性を痛感し、それを設立したいというのが動機なのです。

更に、私たち「地球学校」は、単に日本語教育をすることだけにとどまらず、広く外国人と交流し真の国際交流をはかっていきたいと考えました。

なぜなら、２１世紀を迎え、世界の国際化はますます進むだろうと言われていますが、これまでのわが国の国際交流のあり方にも疑問を感じているからです。

日本は、鎖国により長い間、外国との交流を断っていました。鎖国を解いてからは、西洋の文化を先進的と捉え、それを学び、取り入れようと努力してきました。その反面、アジアやアフリカを後進国として蔑視する傾向があったことは否めません。ですから、近代の日本にとって、国際交流とは先進国に行って、その国の制度や文化を学ぶことに重点がおかれていたといえます。姉妹都市の契りを結び、文化使節を派遣し、視察団を送り、それらはほとんどが‘官主導’で行なわれてきました。政治、社会、文化、学問等あらゆる面で先進諸国に学ぼうという姿勢は、おのずと欧米志向に傾く結果となりました。その姿勢がアジアやアフリカ、イスラム世界に向いた時、後進国（あるいは発展途上国）に対しての援助、救済、指導といった尊大な態度に転じてしまうのは当然だったのかもしれません。

そして、日本は経済大国と言われるまでに、めざましい発展を遂げました。

今、多くの日本人が自由にあらゆる国を訪れ、その国の人々と個人的に交流する時代になりました。技術革新により、瞬時にして世界の情報を手に入れることが可能になりました。海外旅行や海外赴任は、日常的なできごとです。又、日本を訪れる外国

人、日本で暮らす外国人も急速に増え、彼らの国籍や民族も実に多様化してきています。外国人との共生は避けられない現実となりました。望むと望まないとに関わらず、日本も国際化の大きな波に洗われようとしているのです。

国際交流も、新しい時代にふさわしい新しい形が必要だと思われます。真の国際交流とは何かを問いなおし、‘官主導’ではなく、‘市民主体’の交流のあり方を探るべきだと、私たちは考えます。

私たちは、**‘国と国’**ではなく**‘人と人’**の交流が大切だと考えます。
日本と外国とそれぞれ、お互いの文化を尊重することが大切だと考えます。
そのためには、まず知り合うこと、理解すること、学びあうことが大切だと考えます。
しかし、私たち日本人は島国にあって、長い間、外国人と親しく接する機会もないまま、独自の文化を培ってきました。今、海外へ出かけて行って知り合うだけでなく、日本にいる外国人とどうつきあっていけばいいのかが大きな問題だと考えます。

又、他国の文化を知り学ぶと同時に、日本の文化を積極的に紹介し、日本固有の文化や習慣、日本人の感性や価値観などを、正しく理解してもらう努力をすべきだと考えます。そのためには、私たち自身が自国の文化についてもっと学び、より深く理解することも必要でありましょう。

私たち「地球学校」は、さまざまな国の人々や文化と出会い交流する、機会と場を作っていきます。「地球学校」では、国籍、民族、人種宗教など、あらゆる違いを超えて、さまざまな多文化が触れあい、交流すると同時に、日本の文化を紹介し、また、その表徴としての日本語を広く広める活動を行います。

Ⅱ　活動内容

地球学校は [多文化交流部門]と[日本語教育部門]の二部門を設けます。

【多文化交流部門】

情報化社会と言われる今、世界中でいろいろな情報が飛び交い、私たちは各メディアを通じてあふれんばかりの情報を得ています。しかし、それらの情報が必ずしも、世界の真実を伝えているとは限りません。

私たち「地球学校」は、人と人の直接的な出会いとコミュニユケーションにより、信頼関係を築くことが国際理解と国際交流の基本だと考えます。そのために、まず、食やスポーツ、音楽や芸能、あらゆるジャンルを通して外国人とふれあう機会を作り、異文化を体験したり、日本の文化を紹介することによって、交流を図っていきます。具体的には、料理教室やスポーツ交流会、各種の多文化交流イベントを企画運営します。

【日本語教育部門】

日本語を学びたいという外国人が増えていますが、その目的は非常に多様化しています。生活のため、仕事のため、勉強のため、あるいは研究のため、彼らが日本語を学びたいと思った時、日本ではまず民間の日本語学校で学ぶ以外に方法はありません。日本語学校は営利目的がほとんどであり、高い学費が必要です。経済的に苦しい中で尚、日本語を修得したいと望む人々に対し、私たち地球学校は、安価で質の高い授業を提供していきます。

なぜなら、私たちは、日本語は優れて美しい言語であり、日本人としてそれを守り広く伝えていくことは、とても重要なことだと考えるからです。

Ⅲ　なぜ法人化するのか

将来的には、多文化交流の場としての、スペースを持ちたいと考えています。そこは、在住外国人はもちろん、留学生や旅行者が自由に訪れ、集い、触れあい学びあう場所であり、日本をふくめた多文化交流の場所でもあります。必要経費のみで日本語を教える日本語学校があり、ネィテイブの人々が教える外国語教室や、文化講座、料理教室があり、日本文化発信の場ともなる、多目的施設なのです。

しかし、その実現のためには、長い時間が必要であり、堅固な組織と確実な経済基盤が不可欠であります。営々たる努力によって資金確保を図らなければならないと思われます。任意の市民団体のままでは基盤が脆弱であり、目的達成のための事業展開が望めません。法人化することにより組織を固め、社会的信用を得ることが必要だと考えます。その上で着実に事業を進め、資金を確保していきたいと考えています。

それが公共の機関ではなく私たち市民の手によって作られ、市民の手で運営されていくところに大きな意義があると信じます。そのためには、特定非営利法人となることが重要な条件であります。

「特定非営利活動法人　地球学校」となった時、その名の通り、地球文化を生み出す学校を目ざし、それに向かって鋭意努力していきたいと思います。

平成　13年　5月　13日

特定非営利活動法人「地球学校」
設立代表者　上原　榮子